

〔海況概要〕

今週の本県近海の表面水温は、22～25℃台を示し、平年並み～やや低めの水温でした。

〔漁況概要〕

- 中小型まき網——西彼地区では、マサバなどが1日1統当たり10トンの水揚げで、前週の2.5倍（前年を上回った）。五島奈留地区では、マアジなどが1日1統当たり5トンの水揚げで、前週の2.5倍（前年を上回った）。北松南部地区では、マサバなどが1日1統当たり27トンの水揚げで、前週の1.8倍（前年を上回った）。
- イカ釣——スルメイカは、対馬東岸地区では1日1統当たり13kgの水揚げで、前週の1.4倍（前年を下回った）。壱岐勝本地区では、1日当たり471kgの水揚げで、前週の47%（前年を下回った）。ケンサキイカは、対馬東岸地区では1日1統当たり34kgの水揚げで、前週並み（前年を上回った）。壱岐勝本地区では、1日当たり413kgの水揚げで、前週の1.7倍（前年並み）。
- 定置網——五島魚目地区では、シイラなどが1日1統当たり976kgの水揚げ。対馬西岸地区では、マアジなどが1日1統当たり45kgの水揚げ。対馬東岸地区では、マガツオなどが1日1統当たり164kgの水揚げ。
- 一本釣——北松宇久地区では、ヒラマサなどが1日1統当たり238kgの水揚げで、前週の64%（前年並み）。野母地区では、マアジが1日1統当たり17kgの水揚げで前週の1.7倍（前年並み）。

〔日本海スルメイカ情報〕

今期（10/20～10/24の5日間）沖合イカ釣（船凍船）は、隠岐諸島北で操業。沿岸イカ釣（氷蔵船）は、壱岐・対馬及び山口沖～浜田沖～隠岐諸島沖～鳥取沖～能登半島沖～佐渡沖～山形沖で操業。鳥取県西部（沖合船）4日延24隻、総計1,344箱、1航海最高200箱、平均56箱。スルメイカ（20～30入）1,025箱、ケンサキイカ（2立半～3立半）319箱の混獲となった。

（漁業情報サービスセンターより）

〔お知らせ〕

漁海況通信「第4-25号 今期のトビウオ漁模様とトビウオ漁況予報の検証」を発表しました。漁海況週報や漁海況通信は、長崎県庁ホームページ「地方機関 総合水産試験場」の「漁海況情報」からご覧いただけます。

<https://www.pref.nagasaki.jp/section/suisan-shiken/index.html>